

(1) 「過去有仏号威音王神×

(124)×27×0.5 019

堀SD5001

木簡研究第二二一號

石上英一

卷頭言－WEB版木簡データベースの公開に思う－

石上英一

(126)×263×3 061

(2) 「上

(3) 「志
ゆ
い

(90)×(103)×1.5 061

(1)は堀の肩部より人名墨書土師器皿とともに出土した。柿経の一
部である。『妙法蓮華經』常不輕菩薩品第二十(『大正新脩大藏經』第
九卷五一頁)の文言を記したものである。

(2)(3)は堀中より人名墨書土師器皿と共に出土した。(2)は折敷の底
板である。外面中央に墨書されている。(3)は三宝である。脚部の外
側面、宝珠形の透かしの横に墨書されている。

木簡の釈読については奈良国立文化財研究所の館野和己氏・吉川
聰氏・馬場基氏、兵庫県立歴史博物館の小林基伸氏の教示をいた
だいた。

9 関係文献

兵庫県教育委員会『ひょう』の遺跡』一一(一九九六年)

同『平成八年度 年報』(一九九六年)

同『平成九年度 年報』(一九九七年)

(西口圭介)

シンボジウム「長屋王家木簡をめぐつて」の記録
削削からみた長屋王家木簡:渡辺晃宏、長屋王家の米支給関係木簡
:勝浦令子、長屋王家の経済基盤と荷札木簡:柳木謙周、討論のま
とめ:東野治之
木簡の撮影
書評
彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

井上直夫
森公章

今泉隆雄著『古代木簡の研究』

一九七七年以前出土の木簡(一一)
平城京跡左京二条二坊十坪
釈文の訂正と追加(二)
長岡京跡(一八号) 東浅香山遺跡(一〇号) 伊興遺跡(一九
号) 元岡遺跡群
一九七七年以前出土の木簡(一一)
平城京跡左京二条二坊十坪
釈文の訂正と追加(二)
木簡の撮影
書評
彙報